

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会

校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

## 藤田又右衛門による開墾①

市川町尻引の藤田さん宅近くに、大きな石碑がたっています。(写真左) これは約180年ほど前に藤田さんのご先祖で、このあたりを開墾した藤田又右衛門の業績を称え感謝すると共に、それを後世に末永く伝えるためにつくられたものです。

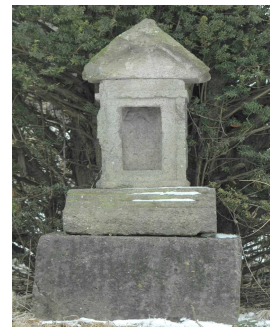
天保7年(1836)、多くの人々が大飢饉に苦しんでいる時に、盛岡藩五戸通の家臣である藤田武兵衛と藤田又右衛門親子が藩に願い出て、市川尻引谷地の開墾に着手しました。まず、上市川村(現・五戸町)の神明川原を流れている五戸川から取水するための工事を開始し、その後、父の武兵衛が弘化4年(1847)に83歳で他界してからも、又右衛門は諦めることなく開墾事業を続けました。



開墾記念碑



記念碑(左)の上部



「奉建立」記念碑

しかし、難工事のために多くの年月がかかり、当時五戸の豪商一族では、奥州の長者と言われた藤田家も私財を使い果たして傾いてしまいました。その後、住民の協力と又右衛門の大変な努力によって、ついに目的を達するのです。その証とも思われるお堂型あかしの古い記念碑が上市川の頭首工(川から農業用水を取り入れる施設)近くにたっています。[写真右、弘化5年(1848)申四月]。これには、世話人として尻引村「弥兵衛(川村建子氏)」「才次郎(谷地秀典氏)」「才助(風穴貞行氏)」と、上市川村・六助、惣四郎の名前が刻まれています。(次号へ)

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一

参考資料：「五戸町誌」「流れる五戸川」  
奈良孝次郎「美田開いた郷土の偉人」  
鈴木亮「水ありて農栄ゆ」